

福島県内におけるイノシシの放射性セシウム濃度の長期モニタリング

○小松 仁¹・村上 貴恵美¹・神田 幸亮¹
(所属 1：福島県)

はじめに

東京電力福島第一原子力発電所の事故から 13 年が経過した現在においても福島県内の野生鳥獣において放射性セシウムが検出されており、摂取・出荷制限が指示されている状況である。

福島県では、「有害鳥獣捕獲」、「個体数調整」及び「狩猟」における捕獲・処理等の安全確保に必要な情報を県民に発信するため、イノシシ等の野生鳥獣の放射線モニタリング調査^[1]を行っている。これらの野生鳥獣の放射線モニタリング調査の結果から、生物種によって体内のセシウム 137 濃度が異なり^{[2], [3]}、とりわけイノシシにおいて筋肉中のセシウム 137 濃度が高い傾向が認められている。

本報告会では東京電力福島第一原子力発電所の事故直後から現在までの福島県内におけるイノシシを中心とした野生鳥獣体内の放射性セシウム濃度の長期的なモニタリング結果について報告する。

調査方法

福島県内で採取されたイノシシ等の野生鳥獣について、筋肉中の放射性セシウム濃度をゲルマニウム半導体検出器にて測定した。得られたデータを採取地域及び採取年度間で比較した。

結果

採取地域及び採取年度を要因とした分散分析を行った結果、イノシシ筋肉中の放射性セシウム濃度は、浜通り>中通り>会津であった ($p<0.0001$)。浜通りでは、2018 年以降は 2014 年度以前よりも筋肉中の放射性セシウム濃度が低い状態で推移していた。しかし、中通りの場合、2016 年度から 2021 年度までの間は 2015 年度以前より筋肉中の放射性セシウム濃度が低かったが、2022 年度は 2014 年度と同程度の放射性セシウム濃度に上昇した。2023 年度は放射性セシウム濃度が前年度より低くなる傾向にあったが、2016 年度と差がなかった ($p<0.0001$)。会津では時間経過と共にイノシシ筋肉中の放射性セシウム濃度は低下しており上昇はみられなかった。

参考文献

- [1] 「野生鳥獣の放射線モニタリング調査結果」福島県 HP. 2024 年 2 月閲覧.
(<http://www.pref.fukushima.lg.jp/site/portal/wildlife-radiationmonitoring1.html>)
- [2] Saito, R., Kabeya, M., Nemoto, Y. & Oomachi, H. Monitoring 137Cs concentrations in bird species occupying different ecological niches; game birds and raptors in Fukushima Prefecture. *Journal of Environmental Radioactivity*. 197, 67-73 (2019).
- [3] Nemoto, Y., Saito, R. & Oomachi, H. Seasonal variation of caesium-137 concentration in Asian black bear (*Ursus thibetanus*) and wild boar (*Sus scrofa*) in Fukushima Prefecture, Japan. *PLoS One*. 13, e0200797 (2018).